

史實調查參考資料報告

所在地	沖繩本島	職官	備註
所屬部隊	第百零二連隊	陸軍准尉	モロ記ス
支那事変	昭三一年一月十日善通寺特攻隊等十隊隊員現役大下ヲ入營以降ニ於テ 昭三一年十月滿洲未安ニ進駐以降該地ニ在リテ即境敵及主ナル參 自己略歴 備ニ從事。一九年十月沖繩本島進駐沖繩本島自戰 斗ニ參加	職、変更	加戰斗名 ヲ記ス
所屬部隊	聯隊本部(一八〇名)	聯隊本部(一八〇名)	最後所屬部隊ヲ記ス尚
所屬	聯隊本部(一八〇名)	聯隊本部(一八〇名)	其ノ降ノ所屬部隊ノ分ヲ記ス
部隊	一 作戰前形ヲ、五月初旬迄自動車大隊ノ主力ヲ以テ島尻地区ヨリ前線(八女岩)彈藥輸送ニ任ズ 二 五月初旬聯隊本部(首里)東方ニ進駐、戰馬大隊前線輸送ニ自動車大隊ノ後方輸送ニ任ズ 三 戰馬大隊ハ五月下旬并リ敵ニ陣地占領ヲ命ケ之約十日間ニ於テ主力ハ僅力ニシテ損耗ス 四 大月初旬島尻地区(一)轉進ニ伴ヒ聯隊本部眞壁附近ニ位置ス、六月十九日聯隊本部司令部自衛ヲ命ケテ眞壁附近ニ於テ殆トシテ主力ハ戦死セリ	聯隊本部(一八〇名)	最後所屬部隊ヲ記ス尚
作戦	三 戰馬大隊ハ五月下旬并リ敵ニ陣地占領ヲ命ケ之約十日間ニ於テ主力ハ僅力ニシテ損耗ス	聯隊本部(一八〇名)	其ノ降ノ所屬部隊ノ分ヲ記ス
経過	四 大月初旬島尻地区(一)轉進ニ伴ヒ聯隊本部眞壁附近ニ位置ス、六月十九日聯隊本部司令部自衛ヲ命ケテ眞壁附近ニ於テ殆トシテ主力ハ戦死セリ	聯隊本部(一八〇名)	其ノ降ノ所屬部隊ノ分ヲ記ス
概要	四 大月初旬島尻地区(一)轉進ニ伴ヒ聯隊本部眞壁附近ニ位置ス、六月十九日聯隊本部司令部自衛ヲ命ケテ眞壁附近ニ於テ殆トシテ主力ハ戦死セリ	聯隊本部(一八〇名)	其ノ降ノ所屬部隊ノ分ヲ記ス
終戦(不) 主力戦 斗終了) 後、状況	主力ノ戦斗終了後各個的ニ各自ガリテ戦斗ヲ續行シ或ハ即頭地区ノ山嶽ニ依リテ抗戦セド、島尻ヨリ即頭(一)敵軍突破ヲ企圖シテ殆トシテ不成功、終リナリ	聯隊本部(一八〇名)	最後所屬部隊ヲ記ス尚
帰郷 (又ハ連絡)	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
其他	五月十三日聯隊本部感狀ヲ授ケル	[Redacted]	[Redacted]
参考事項	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]

6

29

29

関東上陸地支局

昭和

年

月

日

史実調査参考資料報告

所属部隊

輜重兵第三四聯隊

職官

第四聯隊第二隊長

所在地位

神繩本島

氏名

[Redacted Name]

支那軍支以  
付於自  
己略

昭和十九年十月十日  
昭和十九年北都第一聯隊一隊同年同月十九日東京省  
東安三七〇部隊轉屬 昭和十九年十二月七日東京陸軍  
機甲整備學校卒業 輜重兵第四聯隊二隊  
昭和十九年三月三日第一聯隊長被命

所在部隊  
編成年月日  
及編制裝  
備概要

昭和十九年七月十日  
甲裝備(一市隊級)

所属部隊  
作戰經過  
概要

昭和十九年三月三日言作新隊開始  
昭和十九年五月中旬駒馬三市隊特備部隊上  
運玉森三市加  
昭和十九年八月八日東京陸軍轉進同月十七日第四聯隊  
三四七六部隊二配原隊中隊山師團直轄上  
同日直道榮平轉進六月三日曾部隊長自刃  
以後因功英被一命事出入

最後所属  
部隊ヲ主  
三商ソノ  
以テ所属  
部隊ノ介  
テ概記ス

終戦又公主  
力ノ戦斗終  
了ノ状況

昭和十九年六月十七日山師團直轄上  
二轉進同月二十四日中村部隊長大隊長自刃  
残者因功英被一命事出入

帰還輸  
ノ状況  
併記ス

帰郷(又連  
絡)先

[Redacted]

其他ノ参  
考事項

聯隊感状 昭和十九年五月十三日軍司令官  
戴七上御達也

備考

俘虜ニ記載ス第一復員省大部ノ送付ス

摘要

終戦時ノ  
ノ記ス

職ノ変更  
及主ナル参  
加戦斗名ヲ  
記ス

沖繩作戦  
二卷上  
輜重兵第二十四旅隊史実資料

昭和二十二年三月二十五日  
第三十二軍残務整理部

糧重兵才十四 联隊史実資料

才一 部隊履歴の概要

- 一 昭和十九年七月六日 動員下令
- 一 昭和十九年七月十三日 動員完了
- 一 昭和十九年七月十六日 滿洲國東安省東安出發
- 一 昭和十九年七月二十三日 下関上陸
- 一 昭和十九年八月五日 沖繩本島那覇港到着
- 一 昭和十九年八月八日 中頭郡喜名到達
- 一 昭和十九年十月十日 島尻郡富盛地区に転進
- 一 昭和二十年三月二十三日 同日より同地区の陣地構築並に防衛
- 一 昭和二十年六月二十四日 沖繩本島一帯に對し敵機爆撃開始
- 一 昭和二十年六月二十四日 甲号戦備下令同日より戦斗配備完了
- 一 昭和二十年六月二十四日 联隊長戦死

オニ戦斗経過の概要

昭和二十年三月二十三日朝未突如南方上空敵機の大編隊現出の七〇頃より  
沖籠全島に於し爆撃を開始

2、翌二十四日摩子文字―湊川南方海上に敵巡洋艦数隻現出艦砲射撃を南  
せり、其の主射向は湊川具志頭二摩又は並に新成東月平村附近

3、三月二十五日より爾後連日沖籠南部は爆撃及艦砲射撃に依り皮甚を被く  
此の間各部隊は夜間陣地の補強構築障害物等の設置に多忙を極む

4、三月二十七、二十八の両日に巨りの七〇〇頃より摩子文字―湊川海岸に島物砲的  
偽上陸を実施せり

5、四月一日敵は中頭郡中津行場正面に上陸を開始す兵力約三―四師団の  
の也し

韃靼兵二十四隊防衛地之安四



6月4日 韃靼兵八輪送計重ニ基キ東月平野戰倉庫或ハ因場野戰倉庫  
 庫ニ在リタル糧秣及テ座獄ニアル彈藥各部隊ノ保有糧秣等ヲ各部隊  
 ニ配布スルタメ連夜總動ス  
 又四月十日各部隊ヨリ斬込ヲ出入各中隊ヨリ下士官兵各三名一組但將校  
 毛亦一組ツツヲ編成スヲ編成シ準備ス  
 又四月十日ヨリ野砲彈藥及野砲ノ積載ニ出動ス  
 又四月中旬一部患者輸送ニ從事ス  
 又兵團首里地ニ輾進ノ爲ノ交通統制ノ後四月二十日ヨリ同二十七日迄山川南  
 風原ヲ所ニ出動ス  
 又五月四日夜總攻要ニ参加スルタメ晝間行動先行ヲ決シ下士官弁七名途申總  
 攻長変更ノタメ予定変更砲兵才九中隊砲ヲ大名ヲ輸送ス  
 又五月初旬ハ馬ヲ首里前線ニ彈藥糧秣ヲ輸送一部患者護送ニ出動ス馬  
 大隊ハ新川ニ位置シ自動車運シテ兵器彈藥糧秣等ヲ更ニ前線迄ニ輸送ス  
 又五月十日歩兵部隊損耗甚ク各中隊ヨリ下士官將校一下士官二兵十名内外  
 ノ輾属者ヲ出ス  
 又五月十三日軍司令部ヨリ大東亞戰初ノ輾重隊感状ヲ授ケサル  
 又五月十六日駭馬大隊ハ前線ノ歩兵損耗甚大ナルタメ特編部隊トシテ辨威ニ出動  
 戦斗ノ南嶽ハ大橋ヲ佐指揮ス

16. 大橋少佐ノ二十日戦死ニ次デ二十六日米屋中隊長戦死ニ中隊長佐藤中尉重傷  
ヲ負ヒ担架ニテ指揮ヲ執ル等大隊幹部佐藤中尉一人ヲ残スノミ  
17. 首里ノ線ヲ後退シ更ニ持久作戦ヲ強化スルヲ軍司令部後退各部隊モ逐次転  
進ヲ準備自勦車大隊ハ患者後送野視後送各彈藥糧秣ノ後送ニ任ス  
18. 六月一日以後高良野戦倉庫ヲ專ラ固吉新垣喜屋武方面ニ資材後送ニ任ス敵艦砲  
射甚ク才ニ狹ク地帯ニ集中スルニ重リ道路砲彈多ク破壊セラレ連日降雨ニテ搬送ニ  
相宜困難ヲ伴ヒ戦死者致モ亦逐次増加ス  
19. 六月十日八重瀬嶽區盛也中ヨリ転進ヲ命セラレ眞栄里ニ後退ス  
20. 六月十三日輜重隊自勦車隊最後ノ輸送ヲ完成ス兵器糧秣ヲ固吉ニ運搬ス  
21. 六月十四日自勦車ノ部是甚ニ車輻ヲ燒却シ步兵部隊トシテ戦斗準備ヲナス  
22. 六月十七日転進命令下ニ才四中隊(鈴木中尉)ハ山三西ノ部隊ニ配属他ノ中隊ハ師  
団直轄部隊トナリテ眞栄里ニ轉進ス  
23. 六月十八日大里ノ陣地ニ到着戦斗配備完了  
24. 六月十九日敵戦車六台攻撃シ未ル夜更退セシモ戦死者十数名ヲ出ス  
25. 六月二十日新垣ノ三四七ノ部隊長金山大佐ヨリ小頭突破ノ命ヲ受ケリ  
26. 六月二十日才二小隊中隊本部ニ引上テ残存者六十内外残存スニ急連絡者到着  
新垣ニ金山部隊長戦死ノ報告アリ